

日本学術会議 地域研究委員会
多文化共生分科会
(第26期・第9回)

議 事 要 旨

1. 会議名 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第26期・第9回)
2. 日 時 2025年12月7日(日) 13:30~15:50
3. 場 所 Zoomによるオンライン会議

【出席者】(委員)

稲葉、上杉、大西、北中、窪田、小長谷、鈴木、竹沢、陳、丸山、宮崎、森本、吉村、(あい
うえお順)

※ゲスト・スピーカー：高谷幸(東京大学・准教授)、田巻松雄(宇都宮大学名誉教授)、坂
西卓郎氏(公益財団法人PHD協会 常務理事・事務局長)、江島晶子(明治大学教授)

【欠席者】

梅屋、香室、田村、松田

【議題】

(1) 前回の議事録確認

- ・前回の議事録が、確認、承認された。

(2) 日本学術会議多文化共生分科会主催公開シンポジウム「いま、「排外主義」を考える～
共生社会の実現にむけて(仮)」の開催について、以下のように提案があり、この提案に沿っ
て進めることになった。

日時：2025年2月21日(土) 13:30~16:00

開催趣旨：

近年、国際社会では、グローバル化がますます進む中で、外国人に対する排外主義の動きが顕
在化している。欧米での排外主義の広がりのみならず、日本でも選挙やSNSで「外国人」憎悪
をあおる言葉が拡散している。根拠のない「犯罪率」や「社会保障」などの外国人に関する偽情
報の流布は、健全な民主主義を脅かし、外国籍や外国ルーツを有する人々の尊厳と人権を著しく
傷つけている。また、さまざまな市民や団体、企業や自治体、そして政府によって、多文化共生
社会の実現に向けた活動や施策が懸命に取り組みられてきたのであり、それを停滞することなく
さらに進化させるための知恵と工夫が求められている。

本シンポジウムでは、現在の日本社会における排外主義の動きに関して、研究者らによる専門的知見を共有し、さらに現場において実践から導かれる共生社会実現のための展望を探りたい。

開会・趣旨説明 竹沢泰子（関西外国語大学教授）

第一部 「排外主義」とは何か 司会：吉村真子（法政大学教授）

講演1 現代日本の排外主義—移民政策との関係から：高谷幸（東京大学准教授）

講演2 「排外主義」と憲法・国際人権法・人権法：江島晶子（明治大学教授）

話題1 ヨーロッパの排外主義：稲葉奈々子（上智大学教授）

話題2 公人による人種差別の助長・扇動行為：村上正直（奈良大学教授）

質疑応答

第二部 現場から導かれる新たな展望 司会：鈴木茂（名古屋外国語大学教授）

話題3 自主夜間中学の特徴と意義：田巻松雄（宇都宮大学名誉教授）

話題4 難民・外国人労働者支援の現場から見えるもの：坂西卓郎（PHD協会事務局長）

話題5 地方自治体における多文化共生施策：大西楠テア（東京大学准教授）

質疑応答

全体討論

閉会の挨拶

（3）高谷幸氏（東京大学大学院准教授）より、「現代日本の排外主義—移民政策との関係から」と題する報告がなされ、その後、質疑応答が行われた。

（4）田巻松雄氏（宇都宮大学名誉教授）より、「自主夜間中学の特徴と意義」と題する報告がなされ、その後質疑応答が行われた。

（5）坂西卓郎氏（公益財団法人 PHD 協会 常務理事・事務局長）より、「難民・外国人労働者支援の現場から見えるもの」と題する報告がなされ、その後質疑応答が行われた。

（6）今後の活動予定 シンポジウム準備のために、インフォーマルな分科会として、登壇者中心で、オンラインで日程調整をする。

（7）その他 なし

以上